

## おじゃまします 一協豊会 高木東海地区幹事に聞く一

協豊会広報委員会は12月15日（月）、愛知県名古屋市の(株)高木製作所本社に於いて、高木取締役社長にインタビューを行いました。

高木社長には会社概要、沿革、企業体質の強化へのお取り組みや、東海地区幹事として協豊会活動へのお考えや思いなどのお話を伺いました。



「会社概要、沿革についてお聞かせ下さい」

### ◆会社概要、沿革◆

当社の創業は、1890年初代 高木網次郎により、高木網次郎商店を設立、針金で加工した金網ざる、餅焼網などの金網製品の製造卸業をはじめた事が始まりです。1906年クリンプ金網を考案し専売特許を得て「元禄」印の商標で一般に売り出しました。

その後、製品開発・技術開発を進めた結果、鋳物砂のフルイや家庭用線材加工品ならびに通信用金具の商品化に成功し更に1933年豊田自動織機製作所自動車部に金網製品の納入を始めました。そしてA1型乗用車の試作車完成を機にトヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）が豊田自動織機製作所から独立した際、引き続き1938年トヨタ自動車工業に納入を開始し、恒川鉄工所（現株式会社三五）様の紹介によりプレス部品の納入も始めました。

しかしながら、第2次世界大戦の拡大に伴い1945年名古屋大空襲により工場、自宅も全焼し事業活動は、一時中断しました。1946年には工場再建を行い、1948年には株式会社高木製作所を設立し、私の父である高木直治が取締役社長に就任しました。また1950年には、協豊会に入会いたしました。

その当時の事業は、三本の矢で例えると一の矢が自動車部品（朝鮮戦争による特需、ホースバンドの開発による拡大）二の矢は、電信・電話通信金具（1952年発足した日本電信電話公社（現NTT）に全国4社の選定メーカーの一社に認定された。）三の矢は、冷暖房機器（高度成長期の電気製品、三菱重工向け冷暖房機器の板金製作、加工）で展開していました。

その後1983年に私が取締役社長に就任し、この三事業を一つ一つ見てみると非常に脆弱で将来に対する危惧を感じ、今後の将来性、伸びる業種に特化すべきと考え自動車産業（トヨタビジネス）一本に生き残りをかけて展開する事に決心しました。

## 「企業理念、企業体質強化のお取組みについてお聞かせ下さい」

### ◆企業理念、企業体質強化◆

私が社長になり、まずトヨタビジネス一本に特化するには、トヨタ品質管理賞受賞が絶対必要と考え全社一丸となり取り組み1988年受賞する事ができました。1990年には、創業100年を契機に社是を「ファンを創る」に変更し「お客様第一主義」を掲げ、後発であるプレス事業を他社に負けない事業に育てるため、小物プレス、多種少量生産、短納期にチャレンジし改善、工夫し克服し、そこから生まれた金型の標準化、最先端のCAD-CAMシステム化を徹底的に進め、現在の「高木システム」を確立する事により競争力の強化、体質強化につながっていると思います。

社内では、「小さな池の大きな魚になれ」と常に言っています。すなわち大手がひしめく激しい戦場でなく、大手がない戦いの少ない戦場できっちり（存在を示し）生き残って行くことです。

今後は、更に強みを強化していくのは当然ですが、一定の売り上げ規模（今期500億円）以上になってくると同じ戦略だけだと拡大は、難しいと思います。大きな海外市場で今までの様に何十億円もする工場を建てて出て行ったらおそらく採算が合わないと思います。例えばトヨタさんのTNGAのように5万台で採算の合うような工場、一車種だけの生産で採算が合う工場は出来ないうか、そして量が増えたら何個も工場をつなげると言った最小単位の海外進出ライン、これを当社は、コストミニマムラインと言う位置付けで研究開発しています。

またTNGAの流れの中で、現在の商品群のグレードアップを図る提案（例えば既存のステンレスホースバンドをディーゼルトーボ用として高圧に対応するように開発）、既存の商品ラインアップに無い機能を押えていく事により、他に採用頂く等、コストミニマムと商品開発この二点ができてきたら、現在当社は、シンガポール、中国、米国しか工場がありませんが、もっときめ細かくコスト負担少なく海外進出する事により更なる伸びしろが有ると思っています。

## 「安全、品質、環境などのお取組みについてお聞かせ下さい」

### ◆安全◆

安全については、国内の生産現場では、災害は、ほとんど発生していません。保全等非定常作業時に手を擦る程度の内容が年に数件ありました。海外は、ルール違反が主でまだまだです。また、昨今はいつ起こるか分からない災害に備えるためBCPを策定に向け活動をスタートさせました。安全も大切ですが、今の私の最大の関心事は、交通事故撲滅です。自動車に関わる会社で従業員600人で年間約30件の交通事故（加害・被害・自損）は、非常に多くここ数年続いており、自動車産業に携わる者として交通事故撲滅に力を入れております。

## ◆品質◆

品質については、一般的な不具合が発生しにくい工程になっています。重要保安部品については、4項目（溶接・異材・工程とび・熱処理）に絞りそれに該当する品物を特別管理しています。特別な工程管理、仕入先と熱処理の特別管理を行っていますが、大きいクレームは、発生していません。活動としては、現場力向上を図るため作業者の困り事改善活動（安全・品質・生産性の困り事をポストイットを使用し作業員から吸い上げ改善）、品質啓蒙活動（納入不良、品質成績情報を食堂へ掲示）、組長ボードフォロー会（製造職制と品保が参加し発生不具合と職場活動を確認）などの地道な活動が成果を挙げてきています。

## ◆環境◆

環境については、省エネルギー、省資源、廃棄物削減を重点に取り組んでおり、CO<sub>2</sub>削減を目標に環境保全活動を推進しています。省エネルギーでは、照明器具の省エネタイプ・LED照明の導入。省資源では歩留り向上活動および加工油の滴下・塗布量の低減活動などを進めております。廃棄物に関しましては2011年よりゼロエミッションを継続しております。また、当社は緑の多い自然豊かな場所に立地しており、周りの景観を損ねないよう屋根も緑にして自然との調和を図っています。

### 「東海地区の幹事さんとして、協豊会活動についてのお考え、メッセージをお願いします」

私が東海地区の幹事になり8年目を迎えましたが、私が選ばれた理由は、協豊会の名古屋地区のオーナー系会社30社前後の代表として選ばれたと認識しており、トヨタさんの意向をきっちり30社に伝える事が最大の使命と感じています。よって幹事会の内容を即刻メールにて展開したり定期的にトヨタさんの調達幹部の方々と30社の社長の方々との面談の機会を設ける様心がけています。

### 「ご趣味、座右の銘などお聞かせ下さい」

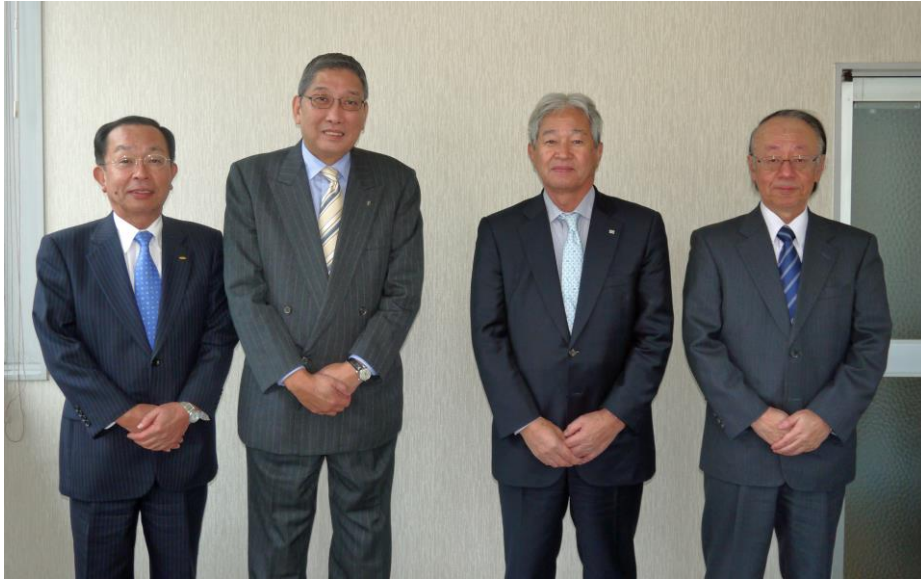
## ◆ご趣味◆

趣味は、一言で「読書」です。本は、結構たくさん読みます。ジャンルは、歴史物、戦記物で、在所の近くに豊川海軍工廠が有り、母親が大の海軍ファンで、よく海軍物の映画を見に行った影響だと思います。また海軍に関連した記念館見学も好きです。

## ◆座右の銘◆

「得意に帆を上げる」です。本来、人間は、好きな事しかやれない。我慢をしたり何か努力したりと、そういう事は、人が見て言うかもしれないが、本人は、好きだからしているんです。成就する事は、好きな事しか無いと思います。だから私は、嫌いな事はしない、好きな事しかしません。座右の銘は、「得意に帆を上げる」です。

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。



高木社長を囲んで・・・(写真中央左)

石塚広報委員長

横山広報委員

小谷事務局長

(太平洋工業㈱ 取締役専務執行役員) : 左

(リョービ㈱ 取締役常務執行役員) : 中央右

: 右